

経営比較分析表（令和4年度決算）

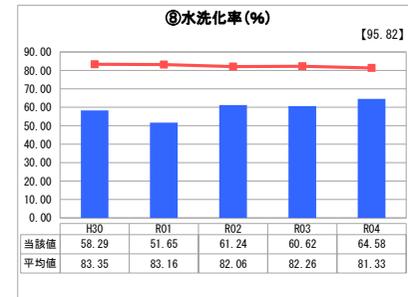
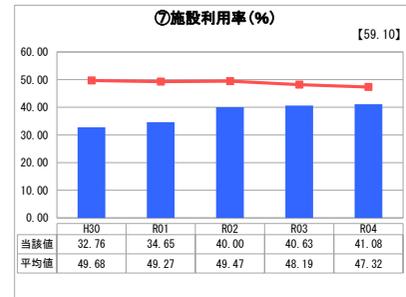
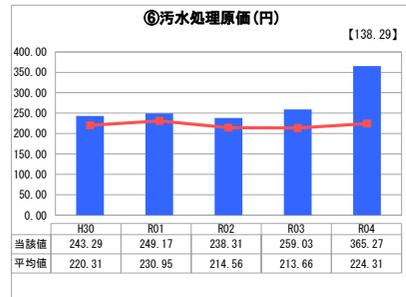
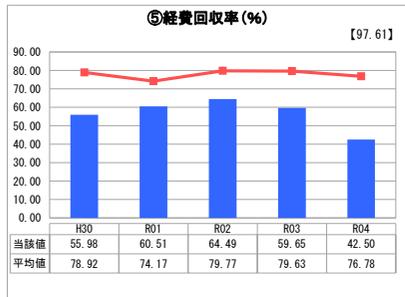
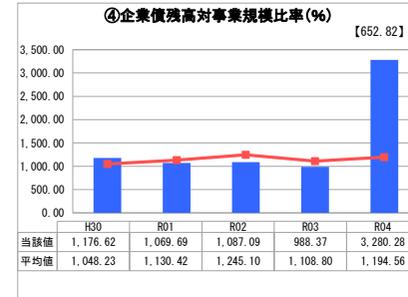
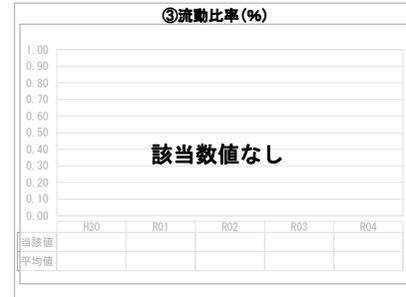
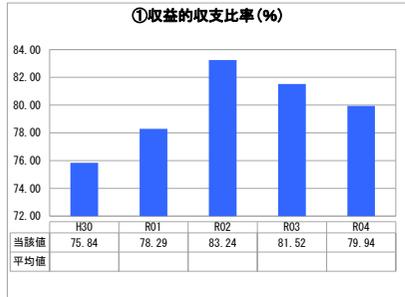
岩手県 山田町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	48.08	101.58	2,879

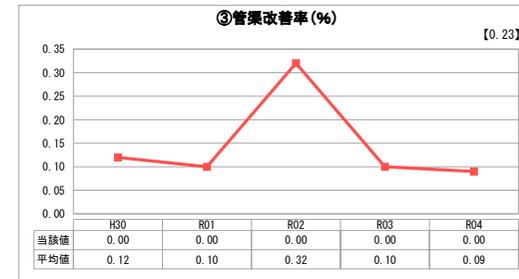
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
14,486	262.81	55.12
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
6,925	3.25	2,130.77

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
[] 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 収益的収支比率
単年度収支は赤字であるが、未普及事業の推進により使用料収入が徐々に伸びており、改善傾向にある。指標の更なる向上のため、維持管理費の縮減など経営改善に務める必要がある。
- 企業債残高対事業規模比率
未普及事業を進めており、高止まり状態が続いている。経営改善に向け、整備区域の見直しなどを行い、適切な投資規模とすることにより、起債残高の縮減に務めていく必要がある。
- 経費回収率
接続人口が増え使用料収入が増えているものの、維持管理費などの汚水処理費が増加しており、減少している。維持管理費の縮減や接続率向上に向けた取組を進める必要がある。
- 汚水処理原価
類似団体に比べて高く、不明水の発生などによる汚水処理費の増加が一要因であると捉えている。今後は施設の適切な維持管理や有収水量の増加に向けた取組を進める必要がある。
- 施設利用率
ここ数年、接続人口が伸びているため上昇傾向であったが、下降に転じつつある。接続人口の更なる増加に向けた取組を進める必要がある。
- 水洗化率
引き続き水洗化率の向上を図っていく。

2. 老朽化の状況について

管渠の老朽化率は低いため、更新工事は基本的にまだ行っていない。

全体総括

公共下水道事業は、令和7年度までは未普及事業を推進し、管渠整備を終える計画としており、今後も供用区域の拡大に伴い接続人口は増える見込みである。
一方で、投資規模の適正化や施設の適切な維持管理などの取組を進め、将来の事業継続を見据えた、抜本的な経営健全化・効率化に務めていく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。